

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600323		
法人名	有限会社ナチュラ・ライフ		
事業所名	グループホーム桜寿		
所在地	磐田市池田391-1		
自己評価作成日	令和5年 9 月 15 日	評価結果市町村受理日	令和5年 12月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 11月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活、その人らしさを継続できるよう、生活リズムや声かけ、体調管理などひとり一人にあった支援が出来るように努めています。また、共に支え合い、喜びや悲しみを分かち合う当たり前のことを大切に、ここに来てよかったと一人でも多くの方々に感じていただける場所になるよう取り組んでいます。今現在コロナ化で外出支援を行うことが中々難しいですが施設内での楽しみを増やし笑顔で過ごして頂いたけるように企画を考えています。外部からのボランティアさんなどには抗原検査を実施など安全確認を行っています。少しずつですが以前のように外部との交流をおこなっていきたくと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員からの意見を大事に取り入れ、ケアに活かしている。取り入れた例としてとして高保湿入浴剤を浴槽に入れ、入浴後は保湿剤を身体に塗り利用者の乾燥対策に努めた。清掃面では、コロナ対策として次亜塩素酸ナトリウムを使用して床や手すりなどを丁寧に清掃している。共有空間の隣りにある事務所の扉は常に開けていることで、利用者が困った時はいつでも話しかけられる環境を作っている。落ち着かない利用者は、事務所で職員と一緒に過ごすなど共有空間や居室だけでは無い居場所づくりに努めている。毎月の行事も職員が工夫を凝らし、夏にはホームの外で流しそうめんやスイカ割りをしたり、お正月やひな祭りの時には、女性の利用者には着物を着てもらうなど楽しめる事を考え実行している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という法人の理念、事業所独自のケアを事業所に提示し、常に確認し取り組んでいる。また、理念を細分化しより具体的にして「関わりの7原則」を設け実践している。	利用者からの相談には丁寧に傾聴し、解決に努めている。寒くて着る服に困っているという訴えには、職員が一緒になって居室の押し入れから服を探すなど「関わりの7原則」に則った行動が出来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や祭典は、コロナ化で参加することが出来なかったが、施設の外壁に祭りの旗を飾り休憩場所として使って頂いた。コロナ化前は、トイレ休憩として施設のトイレの貸し借りをしていた。	「福祉ネイル体験」として利用者の爪にネイルを施してくれるボランティアが来訪して女性の利用者が大変喜ばれた。秋の天白神社祭典では御殿屋台がホームの目の前まで来てくれて、大いに賑わった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉ネイル体験や介護職員の娘さんによるギターの演奏会や地域のヤクルトを届けてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所における入退去状況や活動について議題に取り上げ、意見交換、質疑応答をおこなっている。行政職員、地域包括職員、ご家族様の参加により開催している。ホームの状況開示を行い意見、情報交換を行いサービスに活かしている。	会議では、自治会長が近隣の不審者情報を教えてくれたり、地域包括の職員がオレオレ詐欺への注意喚起をしてくれたりとホームの中だけでなく、地域に関する情報も寄せてくれ、つながりが深まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行っている。相談員様と、情報交換やアドバイスを受け協力関係が築けるように取り組んでいる。	洪水警報等が発表された場合は、市の長寿高齢課から浸水が発生していないか、また台風発生時には停電の危険は無いかな等の連絡が直接入り、連携を密に取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をし拘束に繋がる事のないようにこころがけている。身体的なことはもちろんスピーチロックなどもないように努めている。	身体拘束適正化委員会では、身体拘束とは何かという根本から学び合い、虐待防止委員会を適宜開催して話し合いの場をもっている。職員会議ではセンサー使用を継続するかどうかを常に見直しを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月職員全員で会議を行い虐待について取り上げ職員全員で話し合い、検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在まで日常生活自立支援事業の利用実績なし。成年後見制度を利用していた御家族、後見人へ定期的に連絡をいれ情報共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時にはまず丁寧な説明と質疑応答しご家族様に納得いただき実践している。またいつでも契約内容について質問が出来るよう窓口を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様からの意見を頂けるよう面会時には必ず顔を出す等、コミュニケーションを大切にしている。ご家族様対応をなるべく統一しその職員が主に対応している。こまめにご家族様へ利用者様の状況報告をしている。	家族からは面会に対しての意見が挙がり、それまでの窓際での面会から、天候の良い日はホーム外のエントランスでの面会を行えるようにした。その際、距離を開けるなどの感染対策には十分配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	処遇改善加算はもちろん、月に一回職員全員で話し合いの検討会議を行っている。	職員からの意見を取り入れ、コロナ禍での清掃の仕方を見直した。フローリングシートを使用してのモップ掛けから次亜塩素酸ナトリウムの使用に変更し、手すりや床を丁寧に清掃し、環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に役割を作る事によりそれぞれの能力、希望に合った条件の整備に努めている。またキャリアパスを取り入れ処遇の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では一定の力量に達した時点でチーフ・リーダー研修の受講や、外部研修の機会を設け業務等を通じて知識、技術の向上が出来るよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や介護事業所連絡会に参加する機会を増やしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最低半年に一度はケアプランの更新を行い一人ひとり職員に担当の利用者を配置する事により本人の要望を細かく反映出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめにご家族様に連絡をし現状報告をいている。面会が少しずつ出来るようになり、元気な様子をみて安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点で本人にとって何が一番いいのか考え必要な場合は他のサービス利用を勧めるなどの説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、おやつ作り、畑の収穫や草取り、お掃除等出来ることは利用者様と一緒に言い出来ることに対して自信につながるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルス感染拡大前は施設行事に家族様も参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外食などご家族様、本人が望まれるようなら出来る限り実現できるようにしている。	なかなか会うことが難しい友人や親戚に年賀状を書いたり、手紙や電話を使い長年の友人とやりとりを行うなどコロナ禍でも関係が継続できるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用書様同士が話しやすいようなテーブルの配置、環境作り。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰された方などに相談がしやすいように定期的に連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に希望を聞き答える事が困難な方は御家族様から情報を頂き把握に努めている。	本人の意向はもちろんであるが家族からこれまでの生活歴を聞き活かすよう努めている。昔パズルをするのが好きだった方にパズルを提供したら、他の利用者も一緒に楽しむという輪が広がった事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴等分かるようにファイルし職員がいつでも確認できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族の要望を出来る限り反映出来るように努めている。	遠方の家族に対してはケアプランを郵送しているが、変化があった場合には電話で直接伝えている。ケアプランやモニタリングに記載する言葉は、家族が読んでも理解しやすいような言葉を選ぶように配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バーコード化により記録物を最小限にしているが 必要な場合はご本人の様子を細かく記録をし把握するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族様より要望があった場合には出来る限り希望に沿った支援が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ化ではありますが、ボランティアさんや地域役員さんとは最低限情報交換をし、コミュニケーションを図っている。信頼関係を継続できるようにしていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時等いつ早く指示、連絡が取れる為現在は入所している全ての方施設連携のかかりつけ医に移行されている。	月2回の往診を楽しみにしている利用者も多く、医師と話しをして安心感を得ている。施設連携のかかりつけ医とホームの看護師が必要事項を記載した書類をFAXでやり取りすることでの確な対応が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回または往診時に身体状況日々の様子を含め個別にまとめ情報共有している。必要に応じて医師に相談、受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後から最低一ヶ月はいつまでも戻ってこれるように部屋を確保している。こまめに病院と情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時方から重度化における対応の指針や現時点での御家族様の意向、本人の思いを聞き取りをしている。また入居後も状態の変化が生じた場合には定期的に意向の確認と対応方針の話し合いが行えるよう取り組んでいる。	食事が摂りにくい利用者であっても飲み込みの状態を十分見極めた上で、その人に適した食事形態を提供して、重度化に対する対応をしている。職員会議で看取りの研修を行い、看取りの重要性を学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法はマニュアル化しすぐに分かる場所に保管している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害時の避難先等検討が必要ですがコロナ化で地域の方との相談が出来ていない状況です。	ホームでの防災訓練には自治会長も参加してくれている。放水訓練では、利用者と職員と一緒に水消火器を使用して行っている。災害時には近隣の協力が得られるようになっており関係が構築されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様目線での関わり、排泄介助等恥ずかしい思いをしないように気を配る。	共有空間で普段の癖からズボンを下ろしてしまう利用者に対し、トイレに誘うなど場所を変えて個別での対応で支援に繋げている。利用者が孤立しないように得意な手作業を行ってもらうなど尊重して関わるよう働きかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなく利用者様に意思確認し判断してもらっている。出来ることや得意な事は奪わず自信をもって頂くよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の訴えに耳を傾け出来る限り利用者様を最優先にする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の洗濯や、お化粧品等おしゃれに気を使っている方は持続出来るように声掛け支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあわせてメニューを考えている。一ヶ月に一度は、企画を考え施設で楽しんでもらう支援をしている。	月1回の行事では、うなぎやお寿司を食べたり、夏にはホームの外で流しそうめんやスイカ割りを行うなど楽しめる工夫をしている。誕生会では職員がケーキを手作りしてお祝いをし、利用者に変え喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量を記録に残し水分が摂れているか把握している。栄養等不足している場合は栄養補助食品をとって頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行えるように努めている。歯科往診も毎月2回来てもらい歯科衛生士さんに毎月4回口腔ケアのチェック、ケアをやって頂いている。必要ならば往診以外にも状況を報告し来てもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子の方で歩行困難な場合でもトイレの訴えが出来る方はなるべくトイレでの排泄が出来るように支援している。個別の排泄時間を把握して時間を決めている。	安易にオムツに頼るのではなく、本人の状態を観察し2人介助等でトイレ誘導が出来る場合であれば安全面に配慮しながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に関しては皆でメニューを考えなるべく偏らないようメニュー作りを心掛けている。個々で便秘の方に青汁やヤクルトやミルミルSを飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入浴したい時間を把握し声かけしている。季節に合わせて入浴剤の香を変えている。	座位が不安定な利用者にはチルト式のシャワーチェアを使用して、安全面に十分に配慮している。冬は高保湿入浴剤を入れた湯に入ってもらい、入浴後も保湿剤を身体に塗るなど乾燥対策を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やして夜眠れるようにする。眠剤の内服時間も普段の睡眠状態により個々に調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の一覧表をみてすぐに職員が確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日昼食前に、嚥下体操やラジオ体操を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ化で家族との外出支援があまり出来ない。外に出てベンチに座り利用者様同士でコミュニケーションを楽しんだり畑で野菜を収穫したりしている。	熊野の長藤や桜を見に出かけたり、ホームの隣りにある畑へさつまいもや里芋の収穫に出かけている。天気の良い日はホームの外にあるエントランスの椅子に腰かけて外気浴を楽しまれることもある。	コロナやインフルエンザの状況が気になると思いますが、買い物に出かけたり、回転寿司などの外食支援を行うなど「外への関わり」をより一層充実させることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗難等自ら紛失してしまう恐れがある為、小銭等最低限の金銭のみ所持していただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい等訴えがあった場合はケアマネージャーよりご家族様へ常に連絡できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとの居間には季節を感じられる花や物や壁紙を飾り季節を感じていただく。	共有空間の壁には、大きな雪だるまのイラストが掲示されていた。季節にちなんだ飾り付けを施して視覚的にも楽しめるようになっている。今後はクリスマスツリーの飾り付けを利用者と一緒にを行う予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアにソファを置きそこでお話をされたり、気のあった利用者様のお部屋と一緒にテレビを見るなど日常を楽しんでいただいている。個室なので気を使わずひとりで過ごす事も出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットやタンス、テレビ等使い馴染みのある家具を置かれている利用者様が多い。	昔、夫と一緒に弾いていたというキーボードを持参している方や、昔から愛用している椅子を大切に置いてある方が居たりと居室ごとに個性あふれる持ち込みがあり、利用者の安心感につながっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	畳に座り洗濯物をたためるスペースがある為利用者様に負担がかからず足を伸ばしながら作業ができる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600323		
法人名	有限会社ナチュラ・ライフ		
事業所名	グループホーム桜寿		
所在地	磐田市池田391-1		
自己評価作成日	令和5年 9 月 15 日	評価結果市町村受理日	令和5年 12月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 11 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活、その人らしさを継続できるよう、生活リズムや声かけ、体調管理などひとり一人にあった支援が出来るように努めています。また、共に支え合い、喜びや悲しみを分かち合う当たり前のことを大切に、ここにきてよかったと一人でも多くの方々に感じていただける場所になるよう取り組んでいます。今現在コロナ化で外出支援を行うことが中々難しいですが施設内での楽しみを増やし笑顔で過ごして頂いたけるように企画を考えています。外部からのボランティアさんなどには抗原検査を実施など安全確認を行っています。少しずつですが以前のように外部との交流をおこなっていきたくと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員からの意見を大事に取り入れ、ケアに活かしている。取り入れた例としてとして高保湿入浴剤を浴槽に入れ、入浴後は保湿剤を身体に塗り利用者の乾燥対策に努めた。清掃面では、コロナ対策として次亜塩素酸ナトリウムを使用して床や手すりなどを丁寧に清掃している。共有空間の隣りにある事務所の扉は常に開けていることで、利用者が困った時はいつでも話しかけられる環境を作っている。落ち着かない利用者は、事務所で職員と一緒に過ごすなど共有空間や居室だけでは無い居場所づくりに努めている。毎月の行事も職員が工夫を凝らし、夏にはホームの外で流しそうめんやスイカ割りをしたり、お正月やひな祭りの時には、女性の利用者には着物を着てもらうなど楽しめる事を考え実行している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という法人の理念、事業所独自のケアを事業所に提示し、常に確認し取り組んでいる。また、理念を細分化しより具体的にして「関わりの7原則」を設け実践している。	利用者からの相談には丁寧に傾聴し、解決に努めている。寒くて着る服に困っているという訴えには、職員が一緒になって居室の押し入れから服を探すなど「関わりの7原則」に則った行動が出来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や祭典は、コロナ化で参加することが出来なかったが、施設の外壁に祭りの旗を飾り休憩場所として使って頂いた。コロナ化前は、トイレ休憩として施設のトイレの貸し借りをしていた。	「福祉ネイル体験」として利用者の爪にネイルを施してくれるボランティアが来訪して女性の利用者が大変喜ばれた。秋の天白神社祭典では御殿屋台がホームの目の前まで来てくれて、大いに賑わった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉ネイル体験や介護職員の娘さんによるギターの演奏会や地域のヤクルトを届けてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所における入退去状況や活動について議題に取り上げ、意見交換、質疑応答をおこなっている。行政職員、地域包括職員、ご家族様の参加により開催している。ホームの状況開示を行い意見、情報交換を行いサービスに活かしている。	会議では、自治会長が近隣の不審者情報を教えてくれたり、地域包括の職員がオレオレ詐欺への注意喚起をしてくれたりとホームの中だけで無く、地域に関する情報も寄せてくれ、つながりが深まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行っている。相談員様と、情報交換やアドバイスを受け協力関係が築けるように取り組んでいる。	洪水警報等が発表された場合は、市の長寿高齢課から浸水が発生していないか、また台風発生時には停電の危険は無いかなどの連絡が直接入り、連携を密に取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をし拘束に繋がる事のないようにこころがけている。身体的なことはもちろんスピーチロックなどもないように努めている。	身体拘束適正化委員会では、身体拘束とは何かという根本から学び合う。虐待防止委員会を適宜開催し、話し合いの場をもっている。職員会議ではセンサー使用を継続するかどうかを常に見直している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月職員全員で会議を行い虐待について取り上げ職員全員で話し合い、検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在まで日常生活自立支援事業の利用実績なし。成年後見制度を利用していた御家族、後見人へ定期的に連絡をいれ情報共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時にはまず丁寧な説明と質疑応答しご家族様に納得いただき実践している。またいつでも契約内容について質問が出来るよう窓口を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様からの意見を頂けるよう面会時には必ず顔を出す等、コミュニケーションを大切にしている。ご家族様対応をなるべく統一しその職員が主に対応している。こまめにご家族様へ利用者様の状況報告をしている。	家族からは面会に対しての意見が挙がり、それまでの窓際での面会から、天候の良い日はホーム外のエントランスでの面会を行えるようにした。その際、距離を開けるなどの感染対策には十分配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	処遇改善加算はもちろん、月に一回職員全員で話し合いの検討会議を行っている。	職員からの意見を取り入れ、コロナ禍での清掃の仕方を見直した。フローリングシートを使用してのモップ掛けから次亜塩素酸ナトリウムの使用に変更し、手すりや床を丁寧に清掃し、環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に役割を作る事によりそれぞれの能力、希望に合った条件の整備に努めている。またキャリアパスを取り入れ処遇の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では一定の力量に達した時点でチーフ・リーダー研修の受講や、外部研修の機会を設け業務等を通じて知識、技術の向上が出来るよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や介護事業所連絡会に参加する機会を増やしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最低半年に一度はケアプランの更新を行い一人ひとり職員に担当の利用者を配置する事により本人の要望を細かく反映出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめにご家族様に連絡をし現状報告をいている。面会が少しずつ出来るようになり、元気な様子をみて安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点で本人にとって何が一番いいのか考え必要な場合は他のサービス利用を勧めるなどの説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、おやつ作り、畑の収穫や草取り、お掃除等出来ることは利用者様と一緒にい出来ることに対して自信につながるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルス感染拡大前は施設行事に家族様も参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外食などご家族様、本人が望まれるようなら出来る限り実現できるようにしている。	なかなか会うことが難しい友人や親戚に年賀状を書いたり、手紙や電話を使い長年の友人とやりとりを行うなどコロナ禍でも関係が継続できるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用書様同士が話しやすいようなテーブルの配置、環境作り。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰された方などに相談がしやすいように定期的に連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に希望を聞き答える事が困難な方は御家族様から情報を頂き把握に努めている。	本人の意向はもちろんであるが家族からこれまでの生活歴を聞き、活かしている。昔パズルをするのが好きだったことを聞き、パズルを提供したら他の利用者も一緒に楽しむという輪が広がった事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴等分かるようにファイルし職員がいつでも確認できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族の要望を出来る限り反映出来るように努めている。	遠方の家族に対してはケアプランを郵送しているが、変化があった場合には電話で直接伝えている。ケアプランやモニタリングに記載する言葉は、家族が読んでも理解しやすいような言葉を選ぶように配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バーコード化により記録物を最小限にしているが 必要場合はご本人の様子を細かく記録をし把握するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族様より要望があった場合には出来る限り希望に沿った支援が出来るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ化ではありますが、ボランティアさんや地域役員さんとは最低限情報交換をし、コミュニケーションを図っている。信頼関係を継続できるようにしていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時等いつ早く指示、連絡が取れる為現在は入所している全ての方施設連携のかかりつけ医に移行されている。	月2回の往診を楽しみにしている利用者も多く、医師と話して安心感を得ている。施設連携のかかりつけ医とホームの看護師が必要事項を記載した書類をFAXでやり取りすることでの確な対応が来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回または往診時に身体状況日々の様子を含め個別にまとめ情報共有している。必要に応じて医師に相談、受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後から最低一ヶ月はいつまでも戻ってこれるように部屋を確保している。こまめに病院と情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時方から重度化における対応の指針や現時点での御家族様の意向、本人の思いを聞き取りをしている。また入居後も状態の変化が生じた場合には定期的に意向の確認と対応方針の話し合いが行えるよう取り組んでいる。	食事が摂りにくい利用者であっても飲み込みの状態を十分見極めた上で、その人に適した食事形態を提供して、重度化に対する対応をしている。職員会議で看取りの研修を行い、看取りの重要性を学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法はマニュアル化しすぐに分かる場所に保管している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害時の避難先等検討が必要ですがコロナ化で地域の方との相談が出来ていない状況です。	ホームでの防災訓練には自治会長も参加してくれている。放水訓練では、利用者と職員と一緒に水消火器を使用して行っている。災害時には近隣の協力が得られるようになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様目線での関わり、排泄介助等恥ずかしい思いをしないように気を配る。	共有空間で普段の癖からズボンを下ろしてしまう男性利用者に対して、トイレに誘うなど場所を変えて個別に対応している。男性利用者が孤立しないように得意な手作業を行ってもらうなど尊重して関わっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなく利用者様に意思確認し判断してもらっている。出来ることや得意な事は奪わず自信をもって頂くよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の訴えに耳を傾け出来る限り利用者様を最優先にする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の洗濯や、お化粧品等おしゃれに気を使っている方は持続出来るように声掛け支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあわせてメニューを考えている。一ヶ月に一度は、企画を考え施設で楽しんでもらう支援をしている。	月1回の行事では、うなぎやお寿司を食べたり、夏にはホームの外で流しそうめん、スイカ割りを行うなど楽しめる工夫をしている。誕生会では職員がケーキを手作りしてお祝いをし、利用者に大変喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量を記録に残し水分が摂れているか把握している。栄養等不足している場合は栄養補助食品をとって頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行えるように努めている。歯科往診も毎月2回来てもらい歯科衛生士さんに毎月4回口腔ケアのチェック、ケアをやって頂いている。必要ならば往診以外にも状況を報告し来てもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子の方で歩行困難な場合でもトイレの訴えが出来る方はなるべくトイレでの排泄が出来るように支援している。個別の排泄時間を把握して時間を決めている。	安易にオムツに頼るのではなく、本人の状態を観察し2人介助等でトイレ誘導が出来る場合であれば安全面に配慮しながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に関しては皆でメニューを考えなるべく偏らないようメニュー作りを心掛けている。個々で便秘の方に青汁やヤクルトやミルミルSを飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴したい時間を把握し声かけしている。季節に合わせて入浴剤の香を変えている。	座位が不安定な利用者にはチルト式のシャワーチェアを使用して、安全面に十分に配慮している。冬は高保湿入浴剤を入れた湯に入ってもらい、入浴後も保湿剤を身体に塗るなど乾燥対策を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やして夜眠れるようにする。眠剤の内服時間も普段の睡眠状態により個々に調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の一覧表をみてすぐに職員が確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日昼食前に、嚥下体操やラジオ体操を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ化で家族との外出支援があまり出来ない。外に出てベンチに座り利用者様同士でコミュニケーションを楽しんだり畑で野菜を収穫したりしている。	熊野の長藤や桜を見に出かけたり、ホームの隣りにある畑へさつまいもや里芋の収穫を行いに外に出かけている。天気の良い日はホームの外にあるエントランスの椅子に腰かけて外気浴を楽しまれることもある。	コロナやインフルエンザの状況が気になると思いますが、買い物に出かけたり、回転寿司などの外食支援を行うなど「外への関わり」をより一層充実させることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗難等自ら紛失してしまう恐れがある為、小銭等最低限の金銭のみ所持していただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい等訴えがあった場合はケアマネージャーよりご家族様へ常に連絡できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとの居間には季節を感じられる花や物や壁紙を飾り季節を感じていただく。	共有空間の壁には、大きな雪だるまのイラストが掲示されていた。季節にちなんだ飾り付けを施して視覚的にも楽しめるようになっている。今後はクリスマスツリーの飾り付けを利用者と一緒に行う予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアにソファを置きそこでお話をされたり、気のあった利用者様のお部屋と一緒にテレビを見るなど日常を楽しんでいただいている。個室なので気を使わずひとりで過ごす事も出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットやタンス、テレビ等使い馴染みのある家具を置かれている利用者様が多い。	昔、夫と一緒に弾いていたというキーボードを持参している方が居たり、昔から愛用している椅子を大切に置いてある方が居たりと居室ごとに個性あふれる持ち込みがあり、利用者の安心感につながっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	畳に座り洗濯物をたためるスペースがある為利用者様に負担がかからず足を伸ばしながら作業ができる。		